



参加大学

・山梨大学 ・山梨英和大学

事業協働機関

・山梨県
 ・公益財団法人山梨総合研究所
 ・公益財団法人やまなし産業支援機構
 ・公益社団法人やまなし観光推進機構
 ・昭和産業株式会社
 ・株式会社タンザワ
 ・萌木の村株式会社

お問い合わせ先

山梨県立大学 飯田キャンパス 社会連携課

〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1
 TEL:055-225-5412
 E-mail:cocr-pentas@yamanashi-ken.ac.jp
 HP:http://www.yamanashi-ken.ac.jp



詳細は
こちらから

PENTAS 山梨県立大学



こちらで
情報を発信

Facebookページ

山梨大学 地域人材養成センター 地域未来創造室

〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37
 TEL:055-220-8450
 HP:http://www.fucom.yamanashi.ac.jp/

山梨英和大学

〒400-8555 山梨県甲府市横根町888
 TEL:055-223-6020
 HP:https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/

2021年8月発行

PENTAS Magazine

vol.1



PENTAS YAMANASHI開講。

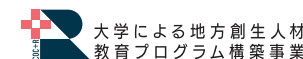
女性のキャリアを考える。

VUCA時代だからこそ、飛び出しているくらいがちょうどいい。

VUCAとは

V…Volatility(変動性・不安定さ)
 U…Uncertainty(不確実性・不確定さ)
 C…Complexity(複雑性)
 A…Ambiguity(曖昧性・不明確さ)

山梨県立大学



ごあいさつ

山梨県立大学 理事長・学長
早川 正幸

山梨県立大学は「地域を愛し、地域を育て、地域をつなぐ」をスローガンに、未来を見据え、学問のさらなる探求と研究・教育力の向上による新たな価値の創造を目指しています。

昨年度、本学が提案した教育プログラムが、文部科学省の「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業(COC+R^{*})」に採択されました。

採択事業の「VUCA時代の成長戦略を支える実践的教育プログラム」は、本学を中心に山梨大学、山梨英和大学の3大学、山梨県、県内の基幹産業関連団体、関連企業が協力して、地域が求める人材を養成するための教育カリキュラムを構築することにより、大学と出口(就職先)が一体となって教育プログラムを実施し、不安定で不確実な現代社会に対応した高付加価値を持つ地方創生人材の育成を図ることを目指しております。

本事業の教育プログラムでは、「観光高度化人材育成プログラム」、「地域づくり加速化人材育成プログラム」、「地域産業を担う人材の事業構想力・コミュニケーション能力・経営マインド醸成プログラム」、「医療・福祉・学校現場での国際化・多文化化対応人材育成プログラム」の4つのプログラムを設置し、外部機関と協働して教育プログラムの開発から修了証の発行までを一貫して行うことにより、学生の地元定着率の向上を図ることとしております。また、このプログラムは社会人にも開放し、学生と社会人の共学に基づく学びは今後の教育モデルとなっていくものであります。

さらに、全国初の大学等連携推進法人として文部科学省から認定された「大学アライアンスやまなし」は、本学と山梨大学との連携により、地域を支える人材育成に寄与することをその目的の一つとしており、本事業の教育プログラムを大きく発展させていくものと期待しております。

つきましては、本事業へのご支援、ご協力をお願いいたします。

※ COC+Rは「Centers of Community - Project for Universities as Drivers of Regional Revitalization through New Human Resources Education Programs」の略称。



PENTAS YAMANASHIと女性のキャリアを語り合った杉山歩、藤田知邑さん、太田有紗さん、風間ふたば(写真:左から) = 山梨県立大学

PENTAS YAMANASHIと女性のキャリア形成

先が見えにくいVUCA時代。その中で女性はどうキャリアを形成していくのか？ 女子学生はキャリアについてどう考えているのか？ 今年6月に開講した「VUCA時代の成長戦略を支える実践的教育プログラム」の前期講義を踏まえながら、学生と独自のキャリアを築いている先輩方が語り合いました。

対談者

杉山 歩 山梨県立大学国際総合政策学部国際コミュニケーション学科准教授/COC+R教育プログラム長

風間 ふたば 山梨大学副学長、地域人材養成センター長/COC+R参加校

太田 有紗さん 山梨県立大学国際政策学部国際コミュニケーション学科3年生/COC+R受講者

藤田 知邑さん 山梨県立大学国際政策学部国際コミュニケーション学科3年生/COC+R受講者

先が見えないVUCA時代、 カギを握るのは、学生世代の女性たち。 キャリアを重ね、自立する生き方を選ぶ。

杉山 歩(以下、杉山): Z世代と呼ばれる2人は、キャリアについてどう考えていますか？

太田 有紗さん(以下、太田さん): 私は大学卒業後は大学院進学とかではなく、働きたいと考えています。

藤田 知邑さん(以下、藤田さん):

私もキャリアを積んでいきたいと考えています。

杉山: 長いキャリアでは転職が前提とか、どんなふうに分のキャリアを思い描いていますか？
風間先生: 結婚、出産しても中断しないでキャリアアップしてきていますよね。

風間 ふたば(以下、風間): 私の母は男女不平等があたり前の昭和一桁生まれなんですけど、その母に「私を反面教師にしないで。経済的にも自立しないと」と常に言われて育ってきたんです。結婚して家庭に入るとい選択肢は私になかったですね。

PENTAS YAMANASHIとは？



PENTAS YAMANASHIとは、COC+Rにおける山梨県立大学の事業名「VUCA時代の成長戦略を支える実践的教育プログラム」の通称です。

PENTASは夏に星形の花を無数に咲かせる常緑性の宿根草で、花言葉は「希望が叶う」「願いごと」「博愛」です。英語では星形の花が半球状に咲く様子から「Star cluster(星団)」とも呼ばれています。

本事業を通して、受講生の皆さんが山梨の地からそれぞれの希望を叶えていくことを願って、この名称がつけられました。

全体のコンセプト **ARTとSCIENCE**の精神を兼ね備えた創造的課題解決人材の育成

ARTとは？

自然を模範とし、美の精神で未来を創造する力

SCIENCEとは？

物事の本質を突き詰め、一般化する力

VUCA時代とは？

過去から未来が見通せない
・形式知(前例主義)が通用しない
・観察からプランを練り、トライする

形式知が役立つ？

実践知を学ぶ場の創出

山梨県立大学は何を教えるべきか？

専門性

キャリア
支援

創造性

学 生 に対して…専門性の高い職業への橋渡し(漠然と事務職希望では通用しない)
社会人に対して…VUCA時代の伴走サポート(キャリアアドバイス)
企 業 に対して…付加価値を生み出す社員の育成



いろいろな視点から考える場に 地元の北海道を元気にしたい

太田 有紗さん

けるスキルを身に付けていきたいと思っています。

杉山: 2人は3年生ということで、まさにこれからのキャリアを考える時ですが、PENTASの前期の授業を受けてみて、どんな感想を持ちましたか？

興味深い地域の取り組み 学生と社会人が共に学ぶ

太田さん: いろいろな分野で活躍されている方たちの考え方などを知ることができて面白かったです。普段の授業とは違う学びになったと思います。

杉山: どんなところが違うと思いますか？

太田さん: 自分のこれからの人生や

づくりの話、縄文の話などがすごく興味深かったです。私は秋田県出身で、山梨のことはあまり知らなかったのですが、山梨の地域おこしや企業の取り組みを具体的に知ることができてよかったです。これをきっかけに地域づくりについても考えるようになりました。

杉山: 山梨の地形がどう个性的なのかとか、富士山や縄文の話など、本当に面白い話がたくさんありましたよね。後期はさらに地域資源の活用について、また地域で活躍されているさまざまな方を講師に招いて話していただく予定です。

藤田さん: 後期の内容もとても興味があるので、受講したいと思います。

風間: 講師のみなさんが、本当にすごい方たちばかりですね。これだけの方たちの話を聞ける機会はなかなかないので、ぜひ多くの学生、社会人のみなさんに受講してもらいたいです。

杉山: 学生と社会人が同じ講義を受けるというのも、PENTASのいいところですね。でも前期は同じ講義を受けている社会人と学生の交流の機会が少なかったのが反省点です。

藤田さん: 前期は社会人の方とほとんど話すことがなかったです。せっかくの機会なので、後期はもうちょっと話せれば良いと思います。

太田さん: 私も社会人の方たちと話してみたいと思います。

風間: そろそろ就職のことも考える時期を迎えた2人には、講義の内容はもちろん、受講している社会人の方たちとの会話の中にも、これ

太田さん: 私は結婚したら専業主婦でいいかなと思っていた時もあったんですが、大学に入ってたくさんの人と出会い、いろいろなことを知っていく中で考えが変わりました。最近では地元の北海道帯広市に戻って、地元を少しでも元気にする取り組みができればいいなと考えています。

藤田さん: 私は結婚しても旦那さんの経済力に従属しないで、稼ぎ続

高校生もPENTAS参加してほしい VUCA時代はバズるチャンスも

杉山 歩

キャリア形成について、いろんな視点から考えるきっかけをもらうことができました。

杉山: 前期は地域資源を知り、その保全について学ぶということで、さまざまな専門分野の現場で活躍されている方々に講師を務めていただき、地域で取り組んでいる活動のコンセプトやビジョン、そこに込めた思いなどについて語っていただいたんですが、どんな話が面白く感じましたか？

藤田さん: 小菅村の村長さんの村おこしの話や、八ヶ岳の観光地域



からに生かせることがあると思いますよ。

杉山: それと今後は大学生、社会人に加えて、高校生も一緒に学べたら面白いだろうなと思います、高校にも参加を呼び掛けてみました。

風間: 高校生が入ると、新たな気付きなどもありそうでいいですね。

杉山: また前期はオンラインの講義もありましたが、後期は基本的に対面で行います。*

風間: コロナ禍でオンラインを余儀なくされたからこそ、対面の良さを実感しましたよね。

杉山: やはり対面だからこそ伝わること、受け取れることっていうのがありますよね。

PENTASの学びを 新たなコミュニティの形に

杉山: 風間先生は女性のキャリアアップのプログラムにも取り組んでいます。どんな取り組みなんですか？

風間: インターンシップ型のステップアッププログラムで、社会に出たことがない人やブランクのある人を対象に、仕事に向かうマインドなどのソフトスキルを学ぶ内容になっています。インターンシップの時間も多く設けていて、働くという感覚を取り戻し、自分にはどんな仕事ができるかなどを考えるきっかけにしてもらえればと思っています。

杉山: しばらく働いていなかったりすると、そんなに自己肯定感が弱くなるものなんですかね。学生の2人はどうですか？

藤田さん: 今はそうではないですが、就活の時には弱くなるかなと思

キャリアを積み、一生のスキルに PENTASで社会人と話してみたい

藤田 知邑さん

います。

太田さん: 私もそこは心配です。

風間: 大学院生でも自己肯定感が弱い人が多いと感じます。日本は幼稚園の時は「あなた天才ね」って常に褒めて育てられているんですが、小学校に入った途端に均一な教育になり、学年が上がるにつれて「ダメじゃん」といわれることが増えていきますよね。

藤田さん: ほかとちょっと違うことがあると、それがいじめのきっかけになったりもします。

風間: そういう中で周りにいかに合



VUCA時代に適応力高い女性 大事なものは楽しさとやりがい

風間 ふたば

わせるかに気を遣って生きようになるんですね。それが自己肯定感の弱さにつながっていると思います。

杉山: 小中高高校ももっと多様化して、大学みたいにクラスも固定しないでいいと思います。そうすれば生き方ももっと自由になれるですね。

風間: 大学生になると授業にサークルにバイトにと、いろんなコミュニティに入りこめるからいいですけど、高校生はコミュニティが少ないですからキツイですね。

杉山: PENTASは学びもコミュニティにしていきたいと思っています。その中で大学生も社会人も、さらに高校生も、ゆるくつながってほしいですね。

風間: コミュニティをつくれるとい

うことも、このプログラムの魅力になれば、もっともっと広がっていくと思います。

人生は一回だけ、 やりたいことはやればいい

杉山: VUCA時代の女性のキャリアについても考えていきたいと思いますが、女性はこの時代、どんなキャリア形成をしていくんで



※新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での実施が中止になる可能性もございます。

しょうか。

風間:男性よりも女性の方がはるかにVUCA時代への適応性が高く、女性はこの時代を生きていくことに心配はないと思います。子育てなどは先が見えないことの連続で、女性はそういう体験を既していますからね。女性の中でも、特に学生のみなさんの世代がこれからのカギになると思います。

太田さん:私たち世代がどう生きるかということですか？

風間:あなたたち世代の女性が自分自身を大切にしながらたくましく生きていけるかどうか、これからの日本の未来にとって大事だと思います。若い世代を対象にしたあるアンケートでは、キャリアを考える上で結婚や子どもを産むことをあまり肯定的に捉えていない回答が多く、胸が痛くなりました。結婚や出産がキャリアの邪魔になるとは思わないでほしいです。

藤田さん:結婚、出産はしたいと思いますが、キャリア形成という点でも、子どもの貧困という点でも不安はあります。

風間:女性はVUCA時代にも柔軟に対応できますし、人生は一回だけだから、やりたいことはやればいいんですよ。考えてやりたいと思ったことは間違いじゃない。自分を信じて、強く肯定しながらやっていけば心配ありません。私の経験から、

一生懸命やっていけば、「もうダメだー」と思った時には必ず誰かが助けてくれるものです。

太田さん:キャリア形成を考えると、どんな仕事をするかも大事ですよね？

VUCA時代だからこそ、飛び出しているくらいがちょうどいい

風間:仕事の内容なんて何でもいいんです。大事なのは、いかに楽しく、やりがいを持ってできるか。人生100年時代なので、働きたくても働きたくなくても、働かないとまらないですからね。それなら楽しく働かないと。

杉山:仕事ってそもそも社会貢献で、働いている時点で貢献しているので、何やってもいいんですよ。僕も教育者になるとは全く思っていませんでしたが、自分がどういう形なら一番社会に貢献できるかを考えて、教育に取り組むのがいいと思ってやっています。

風間:私もこの道をずっと追いかけてきたわけではなく、その都度選んできて、振り返ったら今があっただけ。その選ぶ時の判断基準もだんだん身に付けてきたものです。基本的なところだけ抑えておけば何とかなるものです。ずっと同じ仕事でなくてもいいんですよ。

杉山:VUCA時代ってチャンスでもありますよね。VUCA時代は端的にいうとSNSだという人もいます。つまりSNSはある日突然バズるじゃないですか。それはVUCAのポラティリティ(変動制)やアンサートウンティ(不確実性)、コンプレクシティ(複雑性)などが前提で社会ができていくということで、バズることを感覚的に理解している学生たちは、チャンスもあると思います。

風間:いろいろなことがあり得る時代ですよ。その中で人として基本となる、人様に迷惑をかけない、社会貢献するというのを持っていれば大丈夫です。

杉山:大抵のことは人様の迷惑にならないので、迷ったらやればいいんですよ。教え子の中にもどんどんチャレンジして想像以上のキャリアアップをしている女性がいますが、女性は本当にたくましいと思います。

風間:女性にとっては、これからはのびのびとやりやすい時代になるのかもしれませんが、良いにつけ悪いにつけ、先が見えないのがVUCAの時代で、だからこそ均一なものになるのはむしろ危険です。飛び出しているくらいがちょうどよくて、どこで花が咲くかわからないのが面白いと思います。ぜひ自分のやりたいことをやって、自立していったほしいです。

令和3年度 前期科目担当講師からのメッセージ

堀内 久雄 山梨県立大学特任教授、富士大石ハナテラス 広報本部長

令和3年度の前期科目「地域のチャレンジ1」および「地域資源の保全と活用」では、合わせて16名の多様な実践者が講師として登壇しました。ある講義では受講者からの質問が続き、終了後も教室外での意見交換、ついには実践の現場で再会する約束まで交わしていました。熱い講義が続いています。「人はいつでも変わることができる。」そして、鍵となるのは実践者の「熱」に触れること。大切なのは、感じて、まずは一步を踏み出すことです。後期での出会いも楽しみにしています。

PROFIRE

1954年富士河口湖町生まれ。
9代目の専業農家の長男。元県職員(ライフワークは観光地域づくり)。現「富士大石ハナテラス」広報本部長。
故郷での土着生活を実現すべく
・赤ワイン用葡萄栽培(勝沼町菱山で仲間と20年 限定300本)
・自家農園:肥料は鳥糞鶏の鶏糞と落ち葉の堆肥+発酵竹パウダー
・木こり:暖房は薪ストーブ、特技は薪割り
・そして冬期は猟師
・敬愛するアーティスト:田中派(ダンサー)、李禹煥(現代アート作家)



佐藤 文昭 山梨県立大学特任教授、(公財)山梨総合研究所 調査研究部長

西洋占星術では「風の時代」と言われる今日。教育プログラムの名称にもある「VUCA」に象徴されるように、わたしたちは、常に状況が変化する社会の中で自らの居場所を見失いがちです。だからこそ、「今」という時代をしっかりと感じつつ、そこに吹く風をどのように捉えていくかが問われていると言えます。この教育プログラムを通じて、受講者ひとり一人がこれから目指すべき星=目的を見つけ、それを目指して流されることなく帆を巧みに操っていく術を身に付けること、それを支えてくれるたくさんの人々に出会うことを願っています。

PROFIRE

1966年北海道生まれ。
北海道大学卒業後、1990年に久米建築事務所(現・久米設計)に入社し、庁舎、研修施設、オフィスビルの設計やテーマパークの企画などに携わる。
1994年に渡英し、英国マンチェスター大学大学院、英国エディンバラ大学博士課程を経て、1999年に三菱総合研究所に入社し、環境事業や公共施設マネジメント、PFIなどの業務に携わる。
2005年に独立し、大学コンソーシアムやまなし事務局コーディネーター、山梨大学及び山梨県立大学特任教授、山梨県立大学理事などを経て2020年より現職。



田中 友悟 山梨県立大学特任助教、(一社)山梨市ふるさと振興機構 代表理事

前期科目「コミュニケーション手法」では、予測不可能な時代に求められる創造性を「コンヴィヴィアリティ(他者と共に学び、自立的につくる)」と「ブリコラージュ(分散的に学び、修繕的につくる)」の2つだと定義し、講義と実践演習を通して実践的なコミュニケーションの姿勢と技法を探究しました。授業で扱うファシリテーションや問いをデザインする力は、地域の現場に限らず、集団での課題解決や新しい問題設定に必要なスキルです。講義を聞いて終わりではなく、実際の地域課題の現場で学んだスキルを実践してもらったことで、コミュニケーションの基本能力が全15回で身につく授業となりました。他者と共に学び、つくる力に関心がある方は、ぜひ受講していただけると嬉しいです。

PROFIRE

1992年生まれ。
龍谷大学政策学研究科修了。大学院にてデザインとまちづくりの関係について研究を進める傍ら、まちづくり系シンクタンクや地域商社にて市民活動支援や企業・自治体の新規事業の立案・伴走を経験し、2019年より現職。現在は文化を起点としたまちづくりを支援する地域プロダクションとして、土地の想像力を広げるための事業開発・デザイン・メディア運営に取り組む。

